

東京女子大学

AI・データサイエンス教育について

—外部評価報告書—

2025年3月

外部評価委員

たかはし なおこ
高橋 尚子

國學院大學経済学部教授、

情報処理学会情報処理教育委員会委員

2025年3月5日

東京女子大学 AI・データサイエンス教育について

評価者氏名 高橋 尚子

当該プログラムが、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することができるかについて、以下のとおり評価いたします。

主に、2024年度以降の入学者向け「AI・データサイエンス教育プログラム（認定制度）」について、報告します

一教育内容・手法について

・2024年度では、副専攻ではなく「AI・データサイエンス教育プログラム」として制度化し、4段階のレベル分け、外部大学との科目連携、デジタルバッジなど、充実したことは、高く評価します。さらに、昨年度に指摘した社会科学の科目の充実、高校での学習を補足する科目などのオプション科目が、さまざまな学生に対する配慮がなされ、カバーされていると思います。また、科目のナンバリングにも、系統履修をわかりやすくする工夫がみられ、学生が選択しやすくなったものと思います。

よって、教育内容については、その目標である「多様な分析の方法を理解するだけでなく、自ら有益な情報、知見を引き出し、分析する能力」を身に着けるための必要な科目は、概ね揃っていると評価します。

ただし、「2. (2024 課程)AI・データサイエンス教育プログラムについて」p193の「■ 専門応用レベル」の目標に、「応用する」と書かれているのは、具体性に乏しいと感じます。「応用して○○する」まで書かれたほうが良いのではないのでしょうか。p194の「役に立つと思われる授業科目」という表現は、学生には履修を迷うところかもしれません。「役に立つ可能性がある授業科目」など表現を変えたほうがよいのではないのでしょうか。

また、数年経ったところで、履修のモデルケースなども掲載すると、よいと感じました。・シラバスについて、提供されたものを見たところ、それぞれの目標と概要に応じて、内容は網羅されているものと見受けられます。新しい「DS・ICT 入門 I/II」を必修としているので、高校の「情報」とは異なる、社会人に向けたスキルと知識の磨き直しができると思われます。

東京女子大学

AI データサイエンス教育研究センター

—当該科目により期待される学修成果について

- ・プログラム認定にはならないが、役立つ授業科目一覧を示したことで、数学や情報に自信が持てない学生も、自分のスキルに合わせて修得が可能になると期待します。
- ・学生アンケートの結果も、肯定的なものが多く、単位修得率が100%と意欲的に取り組んでいるとわかります。一方で「専門用語がわからない」といったコメントもあることから、何らかの用語解説（推奨のWebサイトなど）を参考文献で紹介できるのではないかと思います。
- ・レベル設定でステップアップできるので、リテラシーレベルだけでも全員がクリアできたら、女子大として底上げができるのではないのでしょうか。

—その他

- ・新しいAI・データサイエンス教育プログラム（認定制度）が、2025年度以降も学生に浸透し、社会に役立つ人材となることを期待します。また、2021～2023年度入学の学生も、副専攻として最後まで修得することを期待します。
- ・パンフレットを作成した広報活動もあり、外部との連携などがわかりやすく、保護者や受験生にとってもアピールできる情報です。今後、女子大の特徴になることを願います。

以上